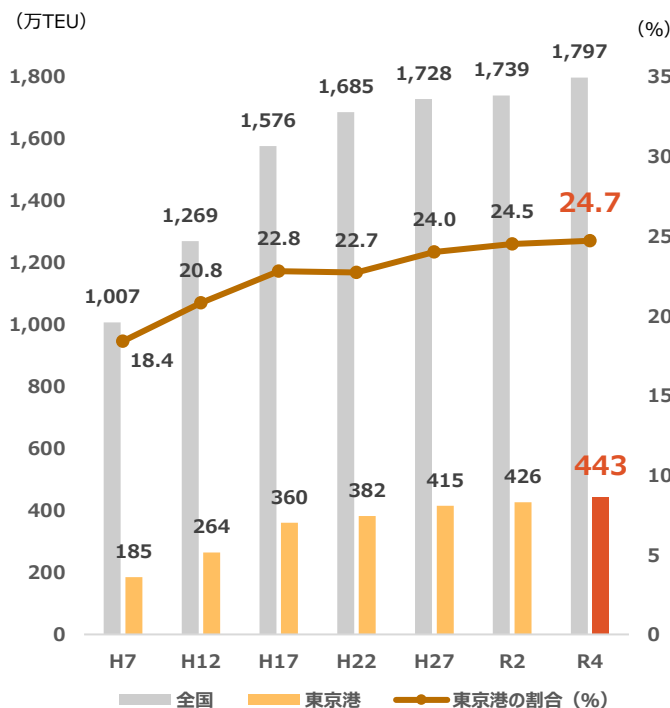


1 東京港のコンテナふ頭の現状

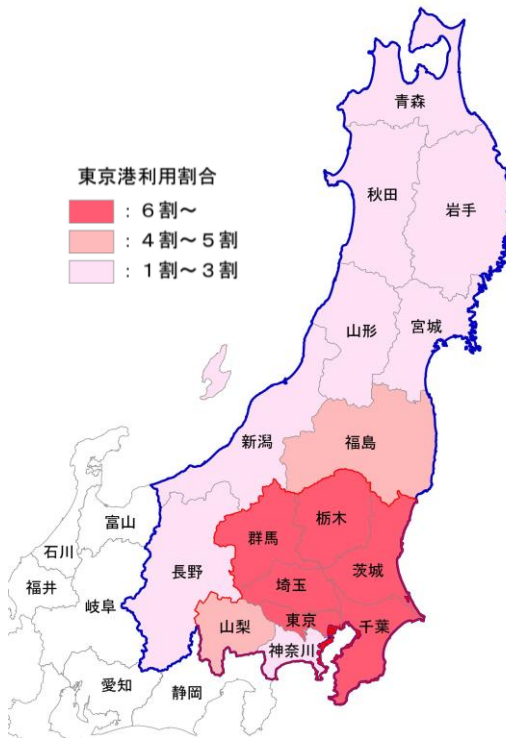
- 東京港は、外貿コンテナ貨物量が26年連続で国内首位となるなど、国内トップのコンテナポート
- 国内の外貿コンテナ貨物の約4分の1、東日本で輸出入される外貿コンテナ貨物の約6割を取り扱い、国内2位の約23兆円の貿易額（成田国際空港に次ぐ）を記録するなど、日本の経済成長を牽引し、国民生活を支える重要な社会インフラ
- 大規模災害時には、救援物資等を輸送する災害時輸送拠点としての機能を有するなど、多岐にわたる役割を果たしている

【国内における東京港の割合（外貿コンテナ貨物）】



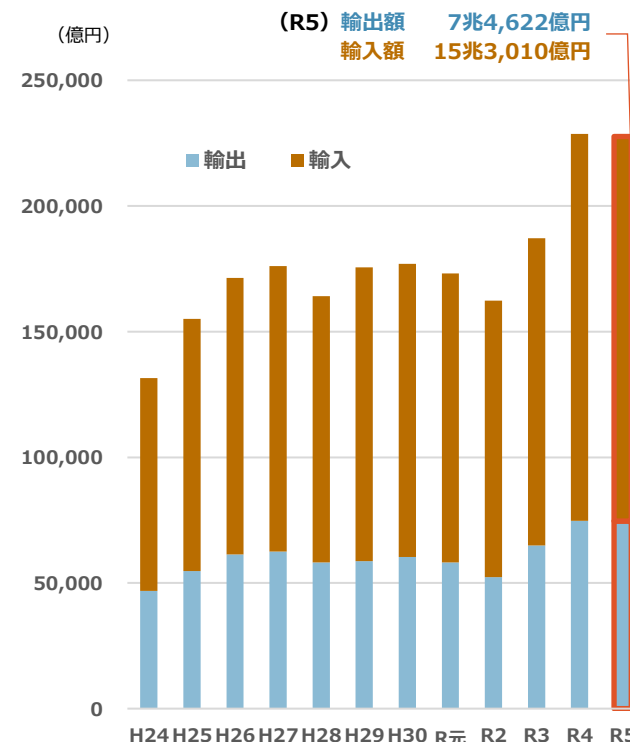
出典：東京港港勢及び港湾近代化促進協議会資料より東京都作成

【東日本における東京港利用率（令和5年）】



出典：令和5年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査（1か月値）
（国土交通省）より東京都作成

【東京港の貿易額の推移】



出典：「東京港貿易概況」より東京都作成

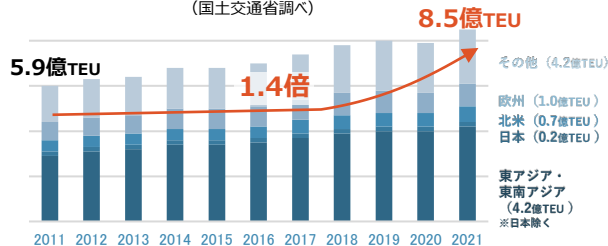
2 東京港を取り巻く状況変化

- 社会経済状況が劇的に変化する中、東京港が日本経済や国民生活を支える役割を果たし続けるためには、この先の10年、20年にわたる様々な状況変化等を見据え、新たな課題に対して戦略的に対応していく必要

活が続く国際海上コンテナ輸送

- 世界のコンテナ取扱量は、2011年から2021年の10年間で5.9億TEUから8.5億TEUと1.4倍に増加
- 東京港は、令和10年代後半におけるコンテナ取扱量を650万TEUと設定(第9次改訂港湾計画)

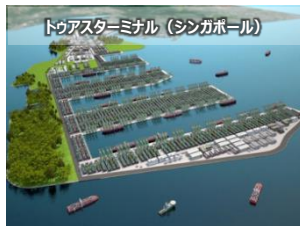
全世界のコンテナ取扱個数の推移
(国土交通省調べ)



出典：国土交通省ホームページより東京都作成

海外における大規模なターミナル整備の進展

- シンガポール港や釜山港では、巨額の資金を投じ、大規模なターミナル整備が進展
- 東京港においては、取扱貨物量に対し、コンテナターミナルの施設能力が大きく不足している状況(現在の取扱量に対し、施設能力が約100万TEU不足)



出典：WSPSホームページ



出典：BJFEZホームページ



出典：APM TERMINALSホームページ



出典：Victoria International Container Terminalホームページ

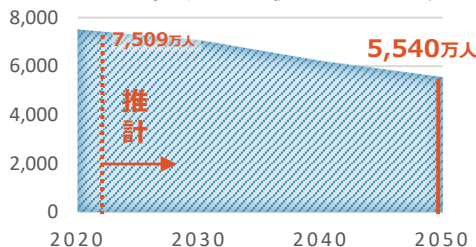
世界でDX・脱炭素化が急激に加速

- 海外では、全自動ターミナルへの移行などDXが急速に進展する一方、東京港は周回遅れの状況
- 世界的に環境への意識が高まる中、脱炭素化に遅れを取った場合、グローバルサプライチェーンから取り残される可能性

本格的な人口減少により担い手不足が深刻化

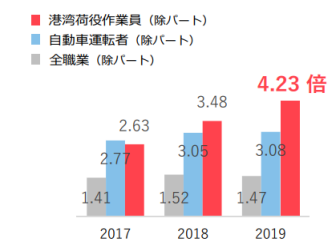
- 国は、経済活動の担い手である生産年齢人口(15～64歳)が2050年には5,540万人(2020年から26.2%減)になると推計
- 物流の現場では、トラックの輸送力不足に加え、東京港でも港湾労働者の担い手不足が深刻化する懸念

生産年齢人口の推移 (内閣府・将来推計)



出典：内閣府ホームページより東京都作成

港湾労働者の有効求人倍率 (国土交通省調べ)



出典：港湾労働者不足対策アクションプラン (国土交通省)

切迫感が高まる大規模地震やサイバー攻撃の脅威

- サプライチェーンに甚大な影響をもたらす異常気象の頻発化・激甚化により、今後も自然災害等のリスクは更に高まる見込み
- 今後、30年以内に70%の確率で、東京都など南関東地域において、マグニチュード7クラスの地震が発生すると予測されている
- 近年、港湾においても、サイバー攻撃の脅威が急激に高まっている



出典：神戸市ホームページ



3 東京港のコンテナふ頭の目指すべき方向性

2050年の将来像

東京港の機能強化を大胆に進めていくことで、世界トップクラスの効率性やサステナビリティを実現

▶ グローバルサプライチェーンの中核として、日本の経済成長を牽引し、国民生活を守る

【目指すべき方向性】

- AIやIoTなど最先端技術の活用により、世界トップクラスの効率性等を備えた「スマートターミナル」を構築
- 水素やグリーン電力などを活用することで、環境負荷の少ない持続可能な「ゼロエミッションターミナル」へと転換
- コンテナ物流情報を共有し、コンテナの流れの最適化により、「サプライチェーンの3S（スピーディ、スムーズ、サステナブル）」が実現

2035年の中間目標

主力ふ頭の大井コンテナふ頭などを世界最先端のコンテナターミナルへとバージョンアップすることで、コンテナターミナルのDX・脱炭素化を強力に推進



リニューアル後のコンテナふ頭の全体像



ターミナルを拡張し、オペレーションを効率化



荷役作業の高度化が飛躍的に進展

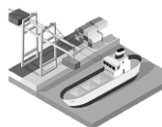
大規模リニューアル後のコンテナターミナル(イメージ)

【中間目標の実現による効果】

- コンテナターミナルの施設能力を大幅に向上することで、東京港の潜在的利用ニーズに対応 ➡ 約10兆円／年の経済波及効果を創出
- 施設能力の向上やコンテナ搬出入予約制の導入等により、ターミナル周辺の交通混雑を解消 ➡ 約87億円／年の外部不経済を解消
- 水素・グリーン電力を燃料とする荷役機械を全ターミナルに導入し、荷役作業の脱炭素化を加速 ➡ 約7割※のCO₂排出量を削減

※ 2020年のコンテナターミナルにおける排出量との比較

【将来像実現に向けた6つの戦略】



コンテナ
ターミナルの
機能強化

コンテナターミナルをバージョンアップし、施設能力の大幅な向上と世界トップクラスの効率性を実現



- 中央防波堤外側ふ頭Y3の整備推進
- 大井ふ頭・青海ふ頭の再編整備の推進
- コンテナターミナルの一体運営の推進



DXの推進

AIやIoTなど最先端技術を活用して、ターミナルオペレーションのDXを加速し、最適かつ効率的な運営を実現



- ターミナルオペレーションの高度化の推進
- コンテナ搬出入予約制の推進
- 予約情報等を活用したオペレーションの効率化



出典：名古屋港管理組合ホームページ



サプライ
チェーンの
効率化

東京港におけるコンテナ物流のサプライチェーンを最適化し、物流コストの削減やリードタイムの短縮、輸送網の多角化を実現



- オフピーク搬出入の促進
- 内航船・鉄道輸送との連携強化
- コンテナ情報の発信強化



出典：日本貨物鉄道㈱ホームページ



出典：井本商運㈱ホームページ



脱炭素化の
推進

水素やグリーン電力など多様なエネルギーを活用し、環境負荷の少ないゼロエミッションターミナルを実現



- 官民連携による脱炭素化の加速
- 荷役機械等への水素等次世代エネルギーの活用促進
- ターミナル内施設等の脱炭素化の推進
- 船舶・トラック等の脱炭素化の推進



出典：Kalmarホームページ



サステナビリティ
の推進

働きやすい環境づくりや大規模災害などに備えた強靱なターミナルを構築し、サステナブルな港湾運営を実現



- 担い手確保に向けた取組の推進(福利厚生施設の充実)
- サプライチェーンの強靱化に向けた耐震強化岸壁等の整備推進



出典：ロッテルダム港ホームページ



推進体制の
強化

東京港埠頭㈱を主体としたターミナル運営を推進し、多様なステークホルダーとの連携を強化



- 東京港埠頭㈱の経営基盤の強化
- 海外港との連携強化
- 関係行政機関との連携強化

